

## 「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校国語科～

第2学年単元名 ばめんごとに読もう 『お手紙』（アーノルド・ローベル作）（第6／13時）  
《本時の目標（育成を目指す資質・能力）》  
場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。（思考力、判断力、表現力等）

### こんな授業になっていませんか？

#### 【教師の発問】



かたつむりくんを待つ二人の様子や  
気持ちを話し合しましょう。

登場人物の行動や気持ちが分かる部分を見付け、どんな気持ちなのかを話し合えば、対話的な学びになるぞ。

#### 【児童の反応】

がまくんは、「しあわせな気持ち」で  
待っていると思うよ。だって教科書に  
書いてあるから…。



かえるくんは、きっと「かたつむりく  
ん遅いなあ、まだかなあ」って思っ  
ているのだと思うよ。



「様子や気持ちを話し合おう」という発問では、活動が焦点化されず、教科書の内容をなぞったり、何となく個人の感覚から捉えたりした考えや思いだけを伝え合う活動になってしまいがちです。

### 「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

#### 「言葉による見方・考え方」とは

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

#### 児童が「見方・考え方」を働かせるためには

### 言葉に着目させる問い掛けと効果的な言語活動の設定が大切です。

国語科は、言葉そのものを学習対象とする教科です。ですから、教師は言葉にこだわった教材研究をすることが大切です。「なぜ作者はこの言葉を使ったのか」「この言葉の順序にはどんな意味があるのか」「自分の思いを表現するにはどの言葉が最適か」など、言葉に着目した授業を展開することで、子どもたちは言葉の意味や働き、使い方を意識するようになります。

そのためには、言葉に意識が向くような意図的な問い掛けと、言葉にこだわり、言葉を手掛かりに考え、試行錯誤するような言語活動の設定が重要になります。普段何気なく使っている言葉について、改めて問い掛けることで、子どもたちが言葉を見つめ直し、言葉への自覚を高めることができる授業にしていきたいと思います。

### 授業を こう変える！

- ・単元を通して言葉に自覚的になる言語活動（音読劇）を設定することで、見通しをもって言葉を手掛かりにして考え、音読に生かすことができるようにする。…①
- ・「しあわせな気持ちが分かる言葉」に着目できる発問にすることで、考える視点を明確にさせ、何を手掛かりに登場人物の気持ちや様子を考えればよいのか捉えやすくする。…②
- ・解釈が分かれそうな言葉（会話文）を取り上げ、全体で考えさせる時間をとることで、自分とは違う解釈があることに気付き、その言葉の解釈について捉え直す。…③
- ・児童の様子を観察して無自覚に解釈している発言を取り上げ、その理由を問うことで、改めて言葉を根拠にイメージを捉え直させ、無自覚に働かせている見方・考え方を自覚できるようにする。…④

## このような授業にしていきましょう！

【子どもたちが自分の解釈を言語活動（音読劇）に生かしたくなる学習展開の設定】…1

【考える視点を明確にする発問】…2

がまくんの気持ちが「しあわせ」に変わったところは、ずばり！どこ？



ほくは、二人で玄関に座ってお手紙を待っているところだと思うな。ほら、ここに「とてもしあわせな気持ちで」って書いてあるよ。



そうかなあ。私は、かえるくんがお手紙書いたって伝えたところだと思うよ。だって、うれしそうに「きみが。」って言っているでしょう。

〈児童の姿〉  
考える視点が明確な発問なので、自分の考えをもちやすくなり、理由と共に話すことができている。

【着目させたい会話文を取り上げ、全体で吟味させる】…3



はなこさんは、「きみが。」とうれしそうに言っていると思ったんだね。ほかの人はどう思った？ 「きみが。」には、どんな気持ちが込められているのかな。

「きみが。」は、驚いて言っていると思って音読していたけれど…。うれしい気持ちもあるかもしれないな。



がまくんは、お手紙は来ないってあきらめているから、うれしそうには言っていないと思うな。

【無自覚な解釈を自覚的にさせる問い掛け】…4



たろうさんは、どうして「あきらめてる」って思ったの？



だって、がまくんはずっと「ばからしいこと言なよ」とか「来やしない」って言っているでしょう。言葉遣いが悪いよね。「来ない」じゃなくて「来やしない」って言っているから、もう絶対あきらめてるって感じがする。



確かに…。こんなに機嫌が悪いのに、かえるくん「ほくがお手紙書いたよ」って言われても、信じられないかもね。私だったら、そんなに急に喜び気持ちになれない気もするなあ。

〈児童の姿〉  
教師に「あきらめてる」と思った理由を問われ、自分が読み取っていたことを改めて考え直しました。その結果、がまくんのせりふである「来やしない」の表現に着目することができ、「来ない」と比較して、その言葉の強さや、そこに込められた気持ちを捉え直すことができました。

〈児童の姿〉  
友達の発言を受けて、これまでのがまくんの機嫌の悪さに気づき、自分の経験を踏まえながら、もう一度「きみが。」に込められた気持ちを、考え直しています。

## ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

音読劇に生かすため読み方を考える場面（第11時）で…1



これまで、がまくんとかえるくんの気持ちを考えてきましたね。自分の考えてきた気持ちが、聞いている人に伝わるような音読の仕方を話し合っていきましょう。

「きみが。」の読み方は、ちょっと疑っている感じに、小さめの声で、「きみが？」って読んだ方がよさそうだね。



賛成！じゃあ、がまくんの「ああ。」って言うせりふはどうしたらいいと思う？ どんな気持ちが込められているのだろう。



〈児童の姿〉  
前時までの読み取りを、言語活動として設定した音読劇に生かそうと主体的に話し合っています。学習したことを振り返りながら、着目したい会話文を見付け、実際に声を出してみたり、読む練習を繰り返したりしながら、どのような読み方（気持ちの込め方）が適切なのかを、試行錯誤しながら考えています。